



がんばるっ子

この夏開かれた第51回全国高等学校軟式野球選手権大会（兵庫県明石市公園球場・高砂市球場）で、高梁城南高校軟式野球部「高梁城南高梁」が東中国代表として出場し、見事ベスト4まで勝ち進みました。準決勝で作新学院（北関東・栃木）に0対1で惜しくも敗れましたが、1回戦の北海（北海道）戦では、8犠打の大会新で持ち味の足を生かして8対2で快勝するなど大活躍しました。

監督の片山逸紀さん（60）は「今年4月に赴任した時は、全然打てないチームでした。しかし、最近の生徒たちには欠けている、がむしゃらさやひた向きさが彼らにはありました」と今回の活躍に驚いていました。

部員は22人。練習は毎日放課後、午後4時から7時まで。準備運動に

『絆で勝ち得た全国ベスト4』

—城南高校軟式野球部—

はじめ、キャッチボール、バッティング、ノック、バンドなどをみっちり行います。

地元企業に勤務の傍ら週3回は指導にあたっているコーチの松田大輔さん（67）は「みんな、野球が大好き。技術より心を鍛えること、礼儀や思いやり、感謝の気持ちを持つことなどを重視。監督と生徒たちとの調整に力を入れています」。

同チームは、その日の出来事などを学年を越えてお互いに話しながら準備運動を行うなど、多感な時期の部員たちに気を配っています。

電気科3年・1塁手の中村龍也君（落合町阿部）は「ベスト4まで残り、これまでお世話になった人に恩返しができました」。総合情報科3年・2塁手の木口裕介君（宇治町宇治）は「3年間で忍耐力が身についたと思うし、野球を通じて感謝の気持ちなどを学びました」。また、主将で投手の電気科3年河上智彦君（備中町長屋）は「全国大会では自分たちが目標としてきた礼儀正しさなどが徹底していたチームばかりで、今までやってきたことが正しかったことを確認できました」とそれぞれに仲間同士で助け合ってきたチームワークの良さ、練習量の多さでは他のチームに負けていなくなつたと語ってくれました。

この秋に開催の兵庫国体にも出場が決まっています。部員同士の絆で勝ち抜いてきた「城南野球」の活躍に期待がかかります。



高梁朗読の会

代表 丸山 志世子さん（68）
（津川町今津）

「広報たかはし」をカセットテープに吹き込んだ「声の広報紙」をご存知でしょうか？

この「声の広報紙」をつくっているのは、「高梁朗読の会」の皆さん。同会は昭和63年に発足し、現在は7人の会員で活動しています。

目の不自由な人にも市からの情報をお知らせできたらと、「声の広報紙」のテープづくりを始めました。

毎月最終金曜日の午後、高梁中央図書館に集まり、録音を行います。その後、編集、ダビングの作業を行い、テープが完成。

こうしてできた「声の広報紙」は高梁中央図書館や高梁総合福祉センターへ置いてあるほか、平成14年からは、目の不自由な人で希望する人への無料郵送も行っています。

「家で何度も練習して、スラスラと記事が読めるように心がけています。でも、いざ録音が始まると、間違えはしないかといつもヒヤヒヤな

「声の広報紙」届けます



「書き言葉と話し言葉は違いますので、記事そのまま読むと聞きづらいことも…。市からのお知らせ記事などは、聞き取りやすいよう内容を編集することもあるんですよ」と西岡倭文子さん（67）は話されます。

「声の広報紙」のほか、物語や随筆などを吹き込んだ「録音図書」のテープもつくっています。

常に聞く人の姿を思い浮かべながら、丁寧にテープづくりを行っている皆さん。「今後もこの活動を続けていきたい」と声をそろえられます。

「何より嬉しいのは、テープを聞いてくださった方からのお便りです。現在は高梁地域の会員ですが、ほかの地域の皆さんにもぜひ参加いただき、輪を広げられたらと思っています。若い世代の皆さんにもこの活動に加わってもらえると嬉しいですね」と代表の丸山さん。

「高梁朗読の会」への詳細は、高梁中央図書館（☎2912）へお問い合わせください。

海外研修団を迎えて



吉備国際大学 スチューデントサポートセンター
留学生課 松永 積恵

7月10日酷暑の中、学校法人高梁学園の教育交流協定である、米国のフィンドリー大学とブラジルのパラナカトリカ大学・パラナ連邦大学学生研修団、計31人を高梁に迎えました。

研修団は午前中、吉備国際大学構内の文化財総合研究センターを見学し、午後は市内の頼久寺において、指導者のもと、書道・茶道・ちぎり絵・琴・華道の体験をしました。

夕方からは、高梁市国際交流協議会主催による「高梁市民との夕べ“ボウリング大会”」に参加しました。各レーンで、「ストライクをとった」と歓声を上げたり、ガターになった人を励ましたり、国や年齢を越えた交流の時となりました。

今年の研修団の中には、日本語の堪能な学生が数人いました。市民の夕べにおける歓迎行事の研修団代表挨拶を、例年なら英語あるいはポルトガル語で行い、大学側で通訳をしますが、今年は、研修団員が日本語の通訳を行いました。これに対して、市民の参加者から温かい拍手がおこりました。他の国を訪問して、相手国の言葉を学ぼうとする、あるいは理解しようとする努力することの大切さを感じました。これが相手国を敬う一つの方法であると…。

■問い合わせ 高梁学園広報室 フリーダイヤル 0120-25-9944/e-mailアドレス : koho@kiui.ac.jp

編集後記

今年の夏も松山踊りや絵ぶた祭りなど、伝統や各地域の特性を生かした行事が目白押しでした。また、全国高等学校軟式野球大会で活躍した城南高校野球部、小惑星に高梁ゆかりの人物「山田方谷」の名を付け世界へPRした香西さん、そのほか国際交流や映画のロケ、市内を巡るバスツアー「わくわく探検隊」なども行われ、この夏はさまざまな形で「高梁」を市内外へPRできたのではないのでしょうか。

高梁の魅力はまだまだまだたくさんあり、これからの時期は、ふるさと祭りや秋祭りなども行われ、周りの景色も今までは違った表情を見せ始めます。この機会に市内巡りをしてみてはどうですか。身近なところで、今まで気付かなかった「高梁」を発見できると思います。

皆さん一人ひとりが広報マンとして、それぞれが見つけ感じた「高梁」を、市内外へ向けてPRしていきます。よう。(T・K)

小惑星に「山田方谷」と命名

火星と木星の間の小惑星帯にある、直径約20〜30キロの小惑星が「(15202) Yamada-Houkoku (山田方谷)」と命名されました。

この小惑星は、1977年に東京大学東京天文台の付属観測所である木曾観測所(長野県木曾町)で研究している際、発見されました。最初は番号で登録していましたが、国際天文学連合小



天文学者
香西洋樹さん(73)
倉敷市玉島阿賀崎在住

お話し聞かせて

惑星中央局(事務局・米国スミソニアン天文台)に、「山田方谷」として申請し、このたび、承認され正式に決定しました。

幕末に備中松山藩の藩政を立て直し、私の住む玉島港(備中藩藩港)の開発にも力を注いだ方谷の功績や歴史に感銘を受け、以前から名付けたいと思っていましたので、大変うれしく思っています。

偉業を成し遂げた「山田方谷」が、遙か彼方から見守り続けていることを感じていただければ幸いです。この機会に、少しでも多くの人が方谷に関心や興味をもってくださると願っています。

「山田方谷」以外にも、これまでに発見した小惑星に「良寛」や「吉備真備」など郷土にゆかりのある偉人などの名を付けています。

山田方谷(1805~1877)…江戸時代末期から明治時代初期の漢学者、備中松山藩士。藩主板倉勝静のもとで藩政改革を断行し、大きな成功をおさめ、勝静が幕府の老中のときには、政治顧問として幕政にも関与。また、藩校有終館の学頭として藩士および民衆の教育にあたり、門弟の中からは、三島中州などを輩出。また他藩から河井継之助なども来遊。方谷の思想、手法、人材は次世代の大きな財産として残されています。